2024年度 国公立大学入試・私立大学入試の分析 日本史

学校法人 河合塾 日本史講師　平野 岳美

1 国公立大学入試の分析

一般に入試で地歴を課している国公立大学は少なく、たとえ課していても文学部を中心に一部の学部・学科のみに課している場合が多い。したがって受験生数が少なく、採点の負担が少ないということもあり、論述問題を出題するところがほとんどである。自分で文章を書いて説明させることで、思考力・判断力・表現力を測ることができるからであろう。

ただ、出題形式はさまざまで、大きくは、論述問題中心の大学と単答問題との併用型の大学に分かれる。前者では**東京大学・一橋大学・筑波大学・名古屋大学・大阪大学**などがあげられ、後者では**北海道大学・京都大学・九州大学**などがあげられる。

後者の大学で問われる歴史用語は、難関私大に比べて基本的な用語が多く、難関大学だからといってやたら細かい用語を覚える必要はない。しかし、一方で、選択問題は少なく、正確に漢字で書ける知識が要求されている。また、正誤問題が少ないのが特徴的で、これらは共通テストを受験していることが前提であることの影響であろう。

加えて、史料・図版・表・グラフを読み取らせて解答させる問題も多い。論述問題でもこうした形式で論述させる問題は多く、なかには読み取りにより教科書的知識以上の思考力を要求する問題もみられる（**東京大学・名古屋大学**など）。

次に2024年度の国公立大学入試における出題テーマの特徴を論述問題を中心にみていきたい。

(1) 原始・古代史のテーマ

今年度の国公立大学入試では、昨年度ほとんどなかった原始時代からの出題がやや復活した。原始時代は問えるテーマが限定されていることもあって、例年出題例は多くないが、今年度は複数の大学で出題がみられた。そのなかでも注目すべきは**京都大学**第4問 問(1)で、**例題1**のように縄文時代の遺物の図版を四つあげ、その図版の遺物を具体的根拠として縄文時代の生業とその特質を問うている。**京都大学**の論述問題で原始時代を扱ったのは2012年度に縄文時代から古墳時代の始まりまでの墓や墓地の変遷を問うて以来であり（原始時代からの出題は2007年にも出題されており3回目）、また、図版を使って論述させる出題は、共通一次試験開始後二次試験に日本史が復活して以来初めての形式である。

■例題1　2024年度　京都大学：第4問 問(1)

> **図a～dに示した遺物を具体的な根拠として示しつつ、縄文時代における生業とその特質について述べよ。**（200字）
> **a　石鏃　　b　石錘　　c　釣針（骨角器）**
> **d　石皿とすり石（図版省略、図版には名称はなし）**

古代史からの出題としては、今年度は奈良時代の政治・軍事関係の問題が多かった。**北海道大学**第1問Aは古代の三関の機能を、**新潟大学**第1問は古代の宮都を、**名古屋大学**第1問では古代・中世の軍事動員を、**千葉大学**第1問は奈良・平安期の藤原氏を、**九州大学**第1問でも古代の宮都をテーマとして扱っている。

(2) 中世史のテーマ

昨年度と同様、今年度も中世史からの出題はやや少なめで、文化史からの出題がやや多かった。**東京都立大学**第2問では、**例題2**のように、Aで院政期を、Bで室町時代を扱い、それぞれの文化の特徴を問うている。

■例題2　2024年度　東京都立大学：第2問

> （問題文省略）
> **問1**　Aの時代の文化は、それまでの貴族文化とは異なる要素が見られるようになった。それはどのようなものであったか。後白河上皇が編んだ書物の名称を含め、80字以内で説明しなさい。
>
> **問2**　Bに記された文化の特色とその背景について、下線部の具体的な名称、農村における人々の生活のあり方と共通する側面も含めて120字以内で説明しなさい。

文化史の論述問題は、問１のようにその文化の特徴をストレートに問う問題もあるが、多くは、その時代の社会経済や外交、政治などとの関連を問うものであり、問２は後者に当てはまる。論述対策ではテーマごとの理解も必要だが、その時代全体の特徴をつかみ、政治･外交･社会経済・文化の関連・因果関係を押さえる学習が必要である。また、実はこの問２は、「集団で楽しむ文化」という特徴とその背景を答えさせる点で、昨年本欄で紹介した 2023 年度**千葉大学**第２問 問５と同視点なのであり、志望大学ではない他大学の過去問演習が重要であることを教えてくれる。**東京大学**第２問も同様で、エピソードを紹介した文章から読み取らせるという独特の形式で、東大寺再建に関して問うているが、この設問の視点は、少し古いが 2005 年度**名古屋大学**第２問 問１・問２とほぼ同じである。**名古屋大学**の問題は問題文と史料で誘導をかけるものであった。一見特殊テーマに見える問題ですら過去問と視点が重複してくる場合もあるので、論述対策として過去問研究は大学を問わずやっておくとよいだろう。

そのほか、外交・貿易に関する問題もめだち、**名古屋大学**第２問は前半で日宋・日元貿易を扱い、**九州大学**第２問は銅と銀をテーマにしつつ、中世の貿易を問うている。また、**大阪大学**第２問は蒙古襲来による軍事・支配体制の変化を問い､**北海道大学**第２問は『蒙古襲来絵詞』を示してモンゴル襲来を問うている。この問題については､絵巻物の分析にもとづく設問があるので後述したい。

(3) 近世史のテーマ

近世史では昨年度に引き続き今年度も外交史からの出題がめだった。**東京大学**第３問は鎖国過程をテーマとした問題であり、**千葉大学**第２問は秀吉の朝鮮出兵とその後の日朝関係や江戸時代初期の対外関係を問うている。**東京都立大学**第３問 問１は鎖国政策の目的を問う問題であった。

また、おもしろい一致としては、**名古屋大学**第３問では西尾藩をテーマにして近世大名の諸相を問うているが、**九州大学**第３問では唐津藩をテーマにしている。ともに大学所在地の近隣藩を扱ってはいるが、そこから大名と幕府の関係や幕府の政策を問うものになっている。とくに**名古屋大学**第３問は西尾藩の石高が変遷していることを表で示し、その理由を問うたり、その表をヒントに､西尾城下図を示して城下の拡大のタイミングを問う、思考力を問う問題になっている。

そのほか、幕府政治を問う問題も多く、先述した**九州大学**第３問 問８は家綱の浪人増加対策を、**一橋大学**第１問は城下町の町人地の構造や享保期の都市対策を、**大阪大学**第３問は田沼の経済政策を、**新潟大学**第３問は飢饉をテーマとして寛政の改革の都市対策をそれぞれ問うている。こうした問題もただ事実を説明させるものではなく、**例題３**の**新潟大学**第３問問４のように、その政策が何を目的に行われ、どういう効果が期待されるのか理解できているかを問うている。

■例題３　2024 年度　新潟大学：第３問 問４

> 下線部（c）の政策（人足寄場の設置：筆者注）は、なぜ都市の治安維持に繋がるのか。30 字以内で説明せよ。

決して難問ではないが、字数が少ないこともあって、正確に理解していないと答えられない問題である。

(4) 近現代史のテーマ

近現代史は出題量が多く、テーマも多岐にわたるが、やはり、今年度も「民主主義」を意識させる「民衆・民衆運動」や「戦争･ファシズム」などのテーマが多かった。**北海道大学**第４問は４本の史料を使って、日清戦争、国際連盟加盟、昭和初期の文化、安保闘争を扱った。**一橋大学**第２問は保安条例、治安警察法、治安維持法の史料を使い、それぞれの時代背景などを問うている。**愛知教育大学**第２問は大日本帝国憲法の制定や特質を扱い、**千葉大学**第３問は五・一五事件をテーマにその後の政治過程を問うた。**東京都立大学**第４問 問１は立憲政友会の成立から解党までの過程を出題している。例年の繰り返しになるが、近現代史はとくに政治・経済・外交を分離することなく、常に因果関係を意識して連動させながら学習していく必要がある。

戦後史については今年度はやや少なめで、1980 年代以降の出題も見られなかった。**一橋大学**第３問問２で第一次オイルショックと第二次オイルショックの違いを問うたのが、時代的に一番新しい部類であり、**筑波大学**第４問は高度経済成長期の国民の生活や意識の変化、**新潟大学**第４問は占領政策の転換と朝鮮戦争、**名古屋大学**第４問Ｃは戦後教育の逆コース、**九州大学**第４問は戦後の占領期の政治、**東京都立大学**第４問問２は 55 年体制の成立と崩壊をそれぞれ出題している。

(5) 史資料を使った問題への対策

先述したが､国公立大学の入試問題では､史資料を使った出題が多く、文字資料を筆頭に、図版資料、表、グラフなどの読み取りを前提に論述させる。今年度も各大学で出題されている。とくに先述した**例題４**の**北海道大学**第２問は『蒙古襲来絵詞』の分析により、改変が行われ

■例題４　2024 年度　北海道大学：第２問 問２

（図省略）
⑴図Ａ・図Ｂを比較すると、弓や長槍をもつモンゴル兵３名（え）の有無がもっとも大きな違いとしてまず目を引く。なぜ、モンゴル兵３名（え）は最終的に描き加えられたのだろうか。この絵巻の主人公とされる竹崎季長、あるいは彼を顕彰したい人間にとっての利点を考慮しつつ、50 字以内で説明しなさい。

ていたことを指摘して復元案を示し、その改変の理由を説明させている。

もとの絵では竹崎季長の前にはモンゴル兵３名はおらず、後で描き加えられたものとする分析に基づき、なぜ描き加えられたのか考える問題である。竹崎季長の功績を誇示するためと容易に解答は想像できるであろうが、50 字の解答にするには絵巻の順番が入れ替わっていることも含めて想像していく必要がある。こうした想像をはたらかせるには日ごろから絵画資料の読み取りの練習をしっかりしておくことが必要だろう。『図説 日本史通覧』（以下、『通覧』）の巻頭３～18 はこうした資料の読み解き演習であり、有効に利用できるものであろう。

2 私立大学入試の分析

私立大学で地歴を受験科目に課す大学は膨大であり、一部近世以降や近現代のみなどと範囲を限定している大学・学部があるが、基本的にはさまざまな時代・分野から出題される。したがって、原始から少なくとも 1970 年代までの基本的学習が対策のベースである。そのことを前提にして、今年度入試を中心に、最近の傾向として注目しておきたい点をいくつか指摘してみたい。

(1) 1980 年代以降の現代史

1970 年代までの学習が基本である旨先述したが、ここ数年 1980 年代（以下、80 年代）以降の現代史からの出題が増加している。とくに関東の私大でその傾向が顕著であり、そろそろ 80 年代は基本的学習の範囲に入れておいた方が無難になってきている。首相名も中曽根康弘までは必須になりつつある。**例題５**の**早稲田大学**法学部第４問がまさにそれを象徴する問題である。

選択肢とはいえ、大平正芳・鈴木善幸・中曽根康弘の順番がわかっていないと解けない問題である。また、鈴木善幸については、**慶應義塾大学**法学部第４問が彼に対するインタビュー記録を史料として扱った問題で、内容的にも鈴木善幸内閣までを扱い、設問 10 の選択肢の一部は 2000 年代を含む問題であった。同じく**慶應義塾大学**文学部第５問はプラザ合意以降の国際状況・経済状況

■例題５　2024 年度　早稲田大学：法学部第４問

（問題文前略）第２次石油危機に対処し、財政再建を目指したのは［ E ］内閣であった。その後の 1980 年の衆参同日選挙では自民党が安定多数を獲得し、［ F ］が内閣を組織することとなった。［ F ］内閣の後を受けた［ G ］内閣は、「戦後政治の総決算」をとなえて行財政改革や教育改革を推進した。
〔問〕
（設問略）
10　空欄Ｅ・Ｆ・Ｇに入る語の組み合わせとして正しいものはどれか。１つ選び、記号をマークしなさい。
（選択肢略）

を問う問題で、問８で、「バブル経済」発生のしくみについて論述問題で問うた。この問題は 2017 年度に同じ**慶應義塾大学**の経済学部で出題され、昨年度の**名古屋大学**でも出題されている。すでに論述問題の頻出テーマになりつつあるといっていいだろう。

とはいえ、まだ 80 年代後半以降はピンポイントで問われるので、そこを押さえておけばなんとかなるだろう。政治史では中曽根康弘内閣の政策、55 年体制の崩壊など、経済史では貿易摩擦と農産物の輸入自由化、プラザ合意からバブル経済、平成不況など、外交史では湾岸戦争と PKO 協力法以降の国際貢献、日米安保共同宣言と新ガイドラインおよびその関連法などが頻出テーマである。そのほか京都議定書などの環境問題や東海村 JCO 臨界事故などの原発関係の出題頻度が高い。関西でも小問レベルではあるが、関関同立大でちらほら 90 年代が出題されるようになってきている。油断なく取り組んでおきたい。

(2) 蝦夷地・北海道史　琉球・沖縄史そのほか

蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史は例年出題が多い。今年度も**慶應義塾大学**法学部第３問が、３本の史料を使った琉球・沖縄史の問題であった。例年琉球・沖縄史を出題してきた**早稲田大学**では、今年度は教育学部第３問が近世の蝦夷地の問題であった。関西でも、**立命館大学**２月４日実施分第３問［２］で明治維新後の琉球・沖縄を、**例題６**のように**関西大学**２月５日実施分第２問（Ｂ）で戦後の沖縄史を、２月７日実施分第４問（Ｃ）で首里城の写真を示し、その歴史を問うている。

こうした蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史の学習には『通覧』が有用である。中世・近世・近代・現代にそれぞれ【特集】が組まれており（現代は沖縄のみ）、詳しく、そしてビジュアルにまとめられているので整理しやすく、理解しやすい。

また、蛇足だが、**立教大学**２月９日実施分第２問では

■例題 6　2024 年度　関西大学：2 月 5 日第 2 問

（B）　1945 年 4 月、アメリカ軍が沖縄本島に上陸すると、（中略）6 月 23 日、組織的な戦闘は終了し、アメリカ軍は沖縄を占領した。この日は現在、沖縄県条例で「慰霊の日」と定められており、毎年、（　6　）市摩文仁の沖縄県営平和祈念公園で、沖縄全戦没者追悼式が開催されている。

第二次世界大戦後、沖縄は日本本土から切り離され、アメリカ軍の軍政下に置かれた。（中略）翌 1955 年 8 月 6 日に（　7　）で第 1 回原水爆禁止世界大会が開かれた一方で、沖縄のアメリカ軍基地では核兵器の配備が進んだとされる。

1965 年からアメリカが（　8　）戦争への介入を本格的に始めると、沖縄や日本本土はアメリカ軍の前線基地となった。沖縄では基地用地の接収やアメリカ兵による犯罪の増加もあり、祖国復帰運動が高揚した。1969 年 11 月に佐藤栄作首相はアメリカを訪問し、（　9　）大統領との日米首脳会談で「核抜き・本土並み」の沖縄返還に合意した。1971 年の沖縄返還協定の調印、翌年の協定発効によって沖縄の本土復帰は実現した。しかし、復帰後もアメリカ軍専用施設のほとんどが返還されなかった。

沖縄県の資料によれば、2021 年 3 月 31 日現在、沖縄県のアメリカ軍専用施設面積は同県総面積の約 8 %、全国のアメリカ軍専用施設面積の約（　10　）%にも達する。

（語群省略）

小笠原諸島の歴史を扱っている。

災害史は、2011 年の東日本大震災以降、よく出題されるようになった。地震・火山噴火・飢饉などを扱った問題が多く、とくに近年は新型コロナウイルスの流行もあって疫病史も散見される。今年度は落ち着いてきているが、**学習院大学**文学部第 3 問が近代の疫病史を、同国際社会科学・法学部第 5 問が関東大震災以降の震災史を、**関西学院大学** 2 月 6 日実施分第 2 問が古代から織豊期の震災史を扱っている。こうした災害史はなかなかまとまった学習が難しいので『通覧』巻末の特集などを利用して確認しておきたい。

(3) 図版資料（彫刻・絵画・建築など）を使った問題

出題形式で注目されるのは文字資料ではない図版を使った問題である。例えば**早稲田大学**文学部第 6 問は毎年のように図版問題を出題している。一般に、図版を示して、作者名や作品名を答えさせる、逆に作品名や作者名を出して該当する図版を選ばせるという単純な問題も多く、有名な図版は一度は確認させておく必要があろう。

また、共通テストでもみられるような、図版を示して読み取りをさせる問題もある。今年度では、**例題 7** のように**南山大学** 2 月 13 日実施分 A（二）問⑽で、「一遍上人絵伝」の福岡市の図版を示して、読み取りをさせる問題が出題されている。

■例題 7　2024 年度　南山大学：2 月 13 日 A（二）

（図版省略）

⑽　下線部 b について述べた文として正しいものを、下記の㋐～㋓から選びなさい。

㋐　この市の開催場所は、現在の九州の福岡である。

㋑　この市では、瓦葺きの建物で商売がおこなわれている。

㋒　この市では、米などの多彩な商品が扱われている。

㋓　この市では、大原女が男に対して布を売ろうとしている。

こうした図版問題は日常的に確認・練習をしておく必要がある。国公立大学分析のところでも述べたが、『通覧』の巻頭の資料の読み解き演習が格好の練習の場を提供してくれている。

(4)「歴史総合」「日本史探究」の影響

一昨年 11 月に共通テストの『歴史総合，日本史探究』の試作問題が公表された。しかし、今年度の入試問題を見る限り、昨年度同様、新課程科目の影響はまだそれほどみられない。「歴史総合」の世界史部分を出題すれば現状では範囲逸脱になってしまうし、「日本史探究」の教科書はまだ今年度の受験生は使用していないから当然反映されることはなかったであろう。ただ、**上智大学** 2 月 6 日実施分第 1 問では問題文で近代の世界史を扱った問題を出題している。設問は日本史の知識で十分解答できる問題であるが、「歴史総合」の準備と言えるかもしれない。また、共通テスト型の問題は増加しつつあり、今年度も**早稲田大学**教育学部第 5 問は共通テストによく見られる会話形式の問題文に史料を利用した読み取り問題で構成されている。会話形式はその文脈の中で「探究」の姿勢が織り込まれるものであり、今後、こうした形式の出題が増加する可能性がある。加えて、今年度も地図問題がかなり見られた。日本国内ではない場所を問う問題も散見されている。例えば**早稲田大学**教育学部第 2 問問 4 は寧波の位置を問うた。こうした問題も今後増加していく可能性は十分にあるだろう。『通覧』には地図資料も多く掲載されており、こうした学習にも有用である。日頃から地図資料に慣れ親しむことで、さまざまな地理的状況や位置関係、分布などを把握しておくと良いだろう。そうすることで、地理的空間認識能力が向上し、上述したような地図問題への対応力を身につけることにつながるだろう。